



通りかかったコテージ
から物が聴こえ
友達がいるのだと思い
恐る恐る中へ足を
踏み入れます

3.10

3!!
100
3!!
100

が吸なす
：引ると
：すかを
：るよう
：る激し
：るうく
：るな
：る音

音の正体を
確かめるべく
僕はドアの隙間から
中を覗き込みました



どうやら音の正体は
あのイルカのミで
あるのミ何かミ
よるべし
あ
ど
う
や
ら
音
の
正
体
は

どうやら音の正体は
あのイルカのミで
あるのミ何かミ
よるべし
あ
ど
う
や
ら
音
の
正
体
は

ちゅっ♡ちゅむっ♡
ちゅう：っ♡
れろ♡れりゅ♡れる♡

ちじぶ
ゆゆつ
ぞつぽ
ぞぽ♡
♡ぶ
♡ぶつ
♡つぽ
♡ぽ♡
♡♡

お姉さんより
それまでいり
一際激し
音を響かせると

友情今
達けま
のなで
腰い聞
が声い
大をた
き出こ
くしと
跳なが
ねがな
まらい
した

つぶぶ
ぽちち
んゆゆ
♡♡♡
♡♡♡
♡♡♡
ぶちゅ
ちゅちゅ
あ♡♡♡

くずぽづづ
つくぽづ
くぽづ
くぽづ

系長

そのまま頭を
後方に反りながら
何度も体を痙攣させ

白い液体を
べーしルの中へ
放出しますへ

は……ん

う……あ……

ふとお姉さんの顔を見ると
僕に気づいてに
様子でこちらに
目線を向けていました



追が快
いれ楽
打てに
ちい打
をるち
掛友ひ
け達し
ますに
す

その様子を見ていると
何故か異様に興奮し
下半身が熱くなつて
くるのを感じました

そして……

近僕濟行
づのん為
いいだが
てるおひ
きド姉と
ますアさ
すのんき
ほがり
うへ

びつくりして
餅をついた
僕のは目に
飛び込んで

いやらしく
中に入った
音の正体で

はあ

ふはあ

ここまでくれば
流石に僕でも
友達に何を
さでか
理解できるか

逃げなくては
頭では
わかつているのに

お姉さんの誘うよう
舌使いに吸い寄せられ
部屋の中へ足を
踏み入れ

ああ

あ

い

ア

ン

.

.

.





